

平成27年第8回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成27年7月28日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成27年7月28日	開会 閉会	1時30分 4時49分	
場 所	小金井市役所本庁舎 第一会議室			
出席委員	委員 長 委員長職務 代理者 委 員	鮎川志津子 福元 弘和 渡邊 恭秀	委 員 教 育 長	岡村理栄子 山本 修司
欠席委員				
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 生涯学習部長 庶務課長 学務課長 指導室長 指導室長補佐	川合 修 西田 剛 河田 京子 鈴木 剛 小林 正隆 高橋 良友	生涯学習課長 図書館長 公民館長 指導主事 指導主事 選定委員長(小金井第一中学校長) 選定副委員長(緑中学校長) 庶務係長	石原 弘一 上石 弘美 前島 賢 平田 勇治 丸山 智史 刀根 武史 神田 正美 中島 良浩
調 製	中島 良浩			
傍聴者人数	51名			

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 3 5 号	小金井市公民館条例の一部を改正する条例の制定依頼について
第 3	議案第 3 6 号	平成 2 8 年度小金井市立中学校使用教科書採択について
第 4	議案第 3 7 号	平成 2 8 年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について
第 5	報 告 事 項	1 その他 2 今後の日程
第 6	議案第 3 8 号	職員の人事異動について

鮎川委員長 皆様、こんにちは。
ただいまから、平成27年第8回小金井市教育委員会定例会を開会する。
日程第1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、福元委員と岡村委員に願います。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

鮎川委員長 次に、日程第2、議案第35号、小金井市公民館条例の一部を改正する条例の制定依頼についてを議題とする。
提案理由を説明願う。

山本教育長 提案理由についてご説明する。
小金井市公民館条例の一部を改正する条例を制定依頼する必要があるため、本案を提出するものである。
細部については担当から説明するので、よろしくご審議の上、ご議決賜るようお願い申し上げます。

前島公民館長 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育長は教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表することとなった。資料、新旧対照表をごらんいただきたい。
新教育長は、執行機関である教育委員会の補助機関ではなく、教育委員会の構成員であり、代表者であることから、教育長が教育委員会に推薦する手続がなじまないということになり、社会教育法も改正されたものである。これにあわせて、22条にある企画実行委員の委嘱については、市独自の制度であるが、改正するものである。
経過措置として、この法律の施行の際、現に在職する教育長は、その教育委員会の委員としての任期中に限り、なお従前の例によりという形になっているので、それに準じた経過措置を設けさせていただいている。

鮎川委員長 事務局の説明が終わった。何かご質問、ご意見はあるか。よろしいか。

それでは、質疑を終了する。

お諮りする。議案第35号、小金井市公民館条例の一部を改正する条例の制定依頼については、原案のとおり可決することにご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしと認める。本件については原案のとおり可決することと決定した。

次に、日程第3、議案第36号、平成28年度小金井市立中学校使用教科書採択についてを議題とする。

提案理由を説明願う。

山本教育長 提案理由についてご説明する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、平成28年度小金井市立中学校使用教科書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。

細部については担当から説明するので、よろしくご審議の上、ご採択賜るようお願い申し上げます。

小林指導室長 事務局からの説明はないので、ご審議のほう、よろしくお願いたい。

鮎川委員長 教科書採択に関して、私たち教育委員は事前に全ての教科書会社の全ての教科の教科書を拝見し、勉強し、また各方面の資料全て目を通し、勉強してまいった。また、選定調査委員長をはじめとする選定調査委員会が作成してくださった、平成28年度市立中学校使用教科用図書選定調査資料についても、私たちは勉強させていただいて、十分研究もしてまいった。そして、研究調査は十分に尽くされたという思いで私たち教育委員5人はこの場に臨んでいる。今回、教科書展示が図書館本館ときたまちセンターで今までよりも長い期間行われ、そこの展示会におけるアンケート、市民の方々、市外の方もいらっしゃると思うが、多くの方からいただいたアンケートについても、教育委員5人全員が全てのアンケートを拝見した。その中のたくさんの貴重なご意見についても考えさせていただ

いた。

それでは、教科書各社ごとの説明については、報告書全てではなく、特徴的なことに絞って報告をしていただきたいと思います。いかがか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 よろしいか。では、異議がないので、そのように進行させていただく。

それでは、選定委員長及び副委員長をご紹介申し上げます。よろしく願います。

まず、教科書選定委員長の刀根校長先生である。

刀根選定
委員長 よろしく願います。

鮎川委員長 教科書選定副委員長の神田校長先生である。

神田選定
副委員長 よろしく願います。

鮎川委員長 それでは、国語から始める。国語の教科書について説明をお願いします。

刀根選定
委員長 それでは、国語についてご説明を申し上げます。各教科書ごとに説明をさせていただきます。

まず、東京書籍についてである。東京書籍は、話す・聞くの教材で、情景スピーチやチャート式討論など、標準的な教材に工夫を加えたものを載せている。全体的に高度な内容で深みがあり、発展的な学習ができると考えられる。生徒の思考力を高められる、考えさせる教材が多く、また読み物教材が身近で、生徒の興味を引くものが多くある。定評のある教材と新しく採用された教材がバランスよく配列されている。

続いて、学校図書についてご報告する。学校図書は新しい教材が多くあり、生徒が興味・関心が持てる教材がある。物語や小説の内

容がおもしろく、さまざまなテーマ、さまざまな切り口で書かれた教材を中心に、生徒の興味を引き、関心が広がる教材が多くある。教材はさまざまな分野から選択されており、新しい教材に挑戦している。

続いて、三省堂についてご報告する。三省堂は、話す・聞くの教材が実践的で、生徒の関心を引くものになっており、ブックトークや句会など、新しい試みに取り組んでいる。生徒にとって、目的、ゴールイメージ、具体的な方法、学習する価値がよくわかり、楽しく体験的に学ぶことができる。社会に出て使える力がしっかりつくイメージが湧く教材がそろい、一つの学習プログラムとして構成されている。

続いて、教育出版についてご報告する。教育出版は、読書教材で取り上げられている作品が話題性のあるものなどもあり、生徒の興味・関心を引くものがそろっており、作品が精選されている。説明的な文章では身近な話題が取り上げられており、生徒にとって魅力的なものも多くある。全学年とも目次に身につけたい言葉の力が教材ごとに明示してある。

最後に、光村図書についてご報告する。光村図書は、生徒が興味を持てる教材が用意されている。難し過ぎず、易し過ぎず、学習するのに適切な長さの教材がそろっている。また、解説が詳しく、自治問題にも触れた教材がある。実践的な言語活動が多く設定されているのが特徴的である。読書案内のページでは、読み終えたらチェックマークをつけるなどの生徒の意欲を高める工夫がある。学習指導要領の目標を順次達成できるように、単元構成と教材配列が工夫されており、説明的な文章、文学的な文章などの教材がバランスよく配置されている。分量や内容はやや多目であるが、中学校の学習を十分に自覚できるものである。

以上である。

鮎川委員長

皆様、何かご質問がある方いらっしゃるか。よろしいか。

事前に十分時間をいただいており、あらかじめ疑問点などは自分たちで及び各方面で教えていただきながら解決してきている。

では、引き続き協議に入る。皆様、ご意見を願います。

福元委員長

今、委員長の話にもあったように、光村図書の、難し過ぎず、

職務代理者 易し過ぎず、無理なく学習できるというところが、全くそのとおりだなという感じになっている。自分で学習を進めていくという視点から見ても、資料等充実しており、見通しも持ちやすく、計画的に学習を進めることができるなというふうに感じている。したがって、小金井の子どもに合った教科書は、やはり光村ではないかなというふうに感じている。

岡村委員 私も光村がすごく好きだった。教科書展示会におけるアンケートの中で光村図書がよく、特に「言葉をつなぐ」がよいと書いてあった。そこで私も熱心に読んだが、この中の、「空を見上げて」は東日本大震災で女川の中学生の五・七・五がずっと日本から世界へ広がっていくという、すごく国語の勉強が大切であり、またこれから楽しんでいけるなという気持ちを抱かせる教材になっていて、他のものに比べると光村がやる気を出させるような国語の教科書だなと感じたので、光村と思う。

鮎川委員長 ほかにご意見あるか。

渡邊委員 私も光村図書がいいと思った。教材の中に、幻の魚、クニマスとか、僕がここにいることがすばらしいとか、科学はあなたの中にある、ろうそくの話である。それから、身近なものから風を考える。それから、月の起源を探るということで、巨大衝突説ということ、自分自身のこともそうであるが、身近なものから幅広い範囲の教材が載っているということだいいと思う。

山本教育長 私は中学校の国語の出身であるので、特に国語科については調査委員会の資料も含めて慎重に丁寧に読ませていただいた。先ほど、刀根先生にそれぞれの教科書会社の長所を述べていただいたが、非常に納得のできる説明だったと思う。総合的に判断して、私は5社のうち2社、東京書籍と光村図書の2つが優れているという思いをした。

理由を申し上げますと、東京書籍は、現代の中学生にぜひ読んでほしいと思われるような新しい教材を積極的に採用している。1年生の辻仁成の『そこに僕はいた』、2年生の重松清の『卒業ホームラン』、3年生のあさのあつこの『風の唄』、どれもこれまでの教科書

にはなかったが、感動的で中学生が共鳴する、そして小説を読む喜びを味わうことができる教材だと思い、私も一国語教員としてこんなのをを使って授業をやってみたいなという思いを強くした。また、読み方、書き方など、言葉の技能を丁寧に解説しているところもすばらしいと思う。国語というのは、単に読んだり書いたりするという作業をする教科ではない。どうしたら効果的な文章になるのか、どうすれば的確に内容を読み取ることができるかなど、言語技能をきちんと教えなければほんとうの価値のある国語の授業にはならないと思っているが、東京書籍からはそのような積極的な編集姿勢が明確に伝わってくると思った。

光村図書も、東京書籍と同様に魅力的な教材文が大変多いと思う。例えば森鷗外は、ほかの会社は『最後の一句』という作品であるが、ここだけは『高瀬舟』、名作である。それを掲載している。文学作品としての力は圧倒的に『高瀬舟』のほうが私は上だと思っている。また、浅田次郎の『蝉の声』も感動的な作品で、人生観を深めさせると思う。また、光村図書の一番いいところは、学習の手引きである。学習の手引きというのは、先生や生徒たちがそれを読んで、授業の見通しを持って学習活動を行うが、それが一番丁寧で、生徒が自主的に学習できるかなと思った。また、東京書籍と同様に、日本語の言語技能をしっかりと説明しているよい教科書だと思った。

皆さんが光村図書がいいと言っているから、私もこの2社のうちのどちらかだったらいいだろうと思うので、光村で結構である。

鮎川委員長

皆様のご意見をまとめると、光村図書は4名の委員皆様がすばらしい教科書でよいということ、山本教育長からは東京書籍も同じぐらいすばらしい教科書で、甲乙つけがたいということであろうか。

私も山本教育長と同じ意見を持っており、東京書籍と光村、どちらもすばらしい、甲乙つけがたいと思った。意見の根拠に関しては、さきの委員の皆様と意見が重なるので、細かくは申し上げないが、光村のバランスのとれた教材の選び方は、中学生の教科書としてよい。東京書籍に関しては、先ほどの山本教育長の意見の中にもあったが、特にあさのあつこ氏の小説が教科書に入ったことは、若干の驚きとともに、とてもよかったと思う。この作者の思春期の心の描き方が良い。中高生にも大変人気のある作家でいらっしゃるが、中

高生にとって読みやすい、そして共感できる教材が入っている。東京書籍はすばらしい教材を選んでくださったと思う。

調査選定資料に、東京書籍は全体的に高度な内容で深みがあり、発展的な学習ができると書かれている。小金井の中学生は読書が大変好きな生徒が多いので、発展的な学習ができるという部分は大変魅力ではあるが、光村がよいというご意見が全員一致となるので、国語に関しては光村に決定ということによろしいか。皆様、ご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

ご異議なしと認める。国語の教科書は光村に決定した。
では、続いて、書写の説明をお願いします。

刀根選定
委員長

それでは、書写についてご報告する。

まず、東京書籍についてである。東京書籍は、手紙やポスター、ノートの書き方など、さまざまな各スタイルを紹介している。学校行事に合わせた書写教材が工夫されて配置されており、書写の技術向上に役立つ教材が多くある。行書の動きの特徴が詳しく一覧になっており、わかりやすく、実際の生活で必要な文字の書き方を学ぶようになっている。

続いて、学校図書についてご報告する。学校図書は、字体が美しく、毛筆を重視している。手紙の書き方など、生活に生かす教材も取り入れており、毛筆の手本・資料が大変豊富で、使いやすいものとなっている。毛筆ではほぼ全ての教材でかご文字を使って説明しており、筆の流れがわかりやすく示してある。

続いて、三省堂についてご報告する。三省堂は、手紙やチラシ、掲示物の書き方など、さまざまな各スタイルを紹介している。同じ字の楷書と行書を並べて載せてあり、比較させることで字体の特徴を学びやすくしている。漢字から平仮名への遷移がわかる教材があり、解説が多く、わかりやすい。

続いて、教育出版についてご報告する。教育出版は、字体が美しく、手本として優れている。文字として正しく整え、早く書くことや書写の能力を生活に役立てるよう、教材の内容選択が工夫されている。手本に味わいのある表現や語が選ばれていて、国語の教科書

は、生活に生かせるもの、身近な実生活に生かせる教材が多くある。半紙と同じ大きさの手本があり、字の大きさを練習するのに適しており、硬筆と毛筆の教材がバランスよく配列されている。

最後に、光村図書についてご報告する。光村図書は、情報を整理して発信する例、資料をまとめるなどが具体的に書かれている。文字が美しくてバランスがよく、手本に味わいのある表現や語が選ばれている。書写の技能に適した構成、配列になっており、硬筆と毛筆の教材がバランスよく配列されている。また、資料も豊富となっている。

以上で報告を終わる。

鮎川委員長

では、皆様、質問のある方はお願いします。よろしいか。
それでは、これより協議を行う。ご意見をお願いします。

福元委員長
職務代理者

私は教育出版がいいかなと思っている。身近な実生活に生かせる手紙の書き方とか原稿用紙の書き方とか、そういうものを取り上げながら指導が展開されているということである。それから、写真が非常に効果的に使われている。筆遣いというのか、非常にわかりやすい。また発展的なページがあって、興味・関心に応じて発展的な学習に取り組むこともできるような工夫がなされている。したがって、教育出版がいいかなと思っている。

鮎川委員長

ほかの皆様、ご意見お願いします。

渡邊委員

私も教育出版がいいと思った。やはり筆遣いが、2色を使っているということで筆の圧がわかりやすかったということと、あと実用例文というのか、例えば宅急便に書く、枠の中に書く例文、そういったものも載っていたので、実際に生活の中で使えるのではないかなと思って、教育出版がいいと思った。

岡村委員

私も教育出版が筆の使い方とかがわかりやすいのでいいと思ったが、なかなか光村もよい。伝票とかの書き方とか、はがきの書き方とか、今は多くをコンピューターで印刷するので、実際に書いてみると字の大きさがみんなばらばらになったりする、字の大きさも大切なポイントなので、光村も教育出版もそれが取り上げられていて

いいと思った。どちらでもいいが、光村は書く姿勢の写真がすごく大きくて、私、子どもたちが座って書く姿勢はすごく大切だと思うので、その写真が大きくてよかったな、光村いいなと思った。どちらもいい教科書と思った。

山本教育長 どれもいろいろ工夫されているが、私が一番いいと思ったのは東京書籍である。なぜならば、毛筆の筆の運びであるが、筆を置くところを「とん」、横に引いたり縦にするところを「すー」、最後「ぴた」という、「とん・すー・ぴた」というかけ声をつけて基本練習をするというのは、小金井の子どもたちにとってみれば、そんなのは当たり前かもしれないが、字を書くのが苦手な子どもにとってみれば、非常によくわかる。丁寧な説明がされているのは唯一東京書籍だった。その次にいいなと思ったのはやはり教育出版で、皆さんがおっしゃったように、筆の運びが、カラーの穂先の説明が全ての手本文字について丁寧にされているので、手本の書き方が一番わかりやすい教科書だと思った。

以上である。

鮎川委員長 整理をさせていただく。福元委員は教育出版、渡邊委員も教育出版、岡村委員は教育出版と光村、両方とも同じぐらいよい。山本教育長は東京書籍が1番、その次に教育出版がよいというご意見でよろしいか。

私の意見を申し上げますと、教育出版と光村がよいと思った。皆様がおっしゃったこととかぶる部分は省く。教育出版は発展的な学習の部分に発展マークがついており、各学年で定められた学習内容、プラスの内容を学ぶことができる。またさらに学習したいときのために補充教材集も加わっているので、意欲を高めていく点でよいと思った。

5人の意見の中で、教育出版が一番よいという意見が多いと思うが、山本教育長はいかがか。

山本教育長 結構である。

鮎川委員長 よろしいか。

それでは、書写の教科書については教育出版の教科書ということ

でよろしいか。ご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

ご異議がないので、書写の教科書は教育出版と決定する。
では、次に、社会（地理的分野）の説明をお願いします。

神田選定

社会科に関しては副委員長の神田が説明させていただく。

副委員長

まず、地理の東京書籍であるが、東京書籍の教科書は、本文を補完する写真、地図、統計が各所に配置され、読み取りや解釈によって思考力・判断力を伸ばせるよう配置されている。写真は遠景のものが多く、世界・日本の各地を俯瞰的に比較できるようになっている。歴史・公民との関連する資料に印がつけられ、他分野と関連した多面的・多角的な学習ができるようになっている。各章の導入では、小学校社会科で学んだ内容を写真や用語で振り返り、小学校との継続的な学習を展開できるように工夫されている。

続いて、教育出版の教科書であるが、教育出版は、写真、イラスト、地図、グラフ、図解などの資料が豊富に掲載され、出典とあわせて視覚的に捉えやすく配置されている。初めに学習課題が明記されているため、生徒が1時間で学習する内容を把握しやすくなっている。また、地域の歴史に関する記述や資料が多く取り上げられ、世界や日本の各地の特色について、歴史的な歩みや背景とのかかわりで捉えられるように構成されている。教科書を開くと、まず、「地理にアプローチ」の欄で、地図の決まり、地図帳の使い方、グラフの使い方、グラフをつくろうなど、各ページで使う資料の使い方が記載されていて、わかりやすくなっている。

続いて、帝国書院である。帝国書院は、迫力のある大きな写真を使用して地理的事象への関心を高め、各地の地域的特色を捉えられるコラムが盛り込まれている。各地の人々の生活の様子を読み取れる写真が多く、主体的に社会の形成に参画する態度を養うように工夫されている。日本の領土については正確にわかりやすく表記している。また、未来の社会をつくるために参考になる共生、環境、防災のコラムが複数設けてあり、さまざまな視点を持たせている。各節の導入には興味・関心を引く写真が集められ、見開きの単位では学習の目当てを見通せる学習課題から、最後の学習事項を振り返り、

確認しよう、説明しようの流れで構造化され、基礎的・基本的な知識や技能・概念が確実に習得されるように配慮されている。

最後に、日本文教出版であるが、日本文教出版は、重要語句を中心に内容がコンパクトにまとめられていて、生徒が理解しやすいものとなっており、図版は本文との関連が的確で、日本や世界の地域的特色を具体的にイメージできる資料が豊富である。統計グラフは比較や変化に注目したものが多く、読み取りの技能だけでなく、思考力・判断力を培うものとなっている。また、世界の国々については、面積や人口だけでなく、国旗や国名の由来などからのアプローチがあり、多角的な視点から学習できる。

以上である。

鮎川委員長

何かご質問ある方いらっしゃるか。よろしいか。

それでは、これより協議を行う。ご意見をお願いする。では、福元委員、いつも最初にすまない、お願いする。

福元委員長
職務代理者

私は帝国書院がいいと思っている。今、説明の中にもあったように、学習課題が明記されていて、学習内容が非常に把握しやすいということ、要するに見通しが持てるということである。それから、確認しよう、説明しようの流れの中で学習事項を振り返るというのが非常にやりやすいということ、また、学習の例も多いので、生徒たちが主体的に学習に取り組みやすいというふうに感じた。また、市民の方からいただいたアンケートの中にも、読んでいたら、地図帳の使い方、読み取り方というところの扱いが、小金井から近い高尾山を扱って、小金井の子どもにもいいのではないかなというようなことがあった。さらに身近な地域の調査というところでは、お隣の練馬区が出されていた。そんなところから、帝国書院がいいのではないかなというふうに思う。

鮎川委員長

他にご意見あるか。

渡邊委員

私も帝国書院がいいと思う。まずは、領土と領域について詳しく書かれているということである。これが第1にある。次に、変化する日本の工業・農業の空洞化から、日本の技術の見直しを、これからの未来を方向づけているということも、子どもたちにとっては非

常にいい教材だと思う。

以上である。

岡村委員

私はただひたすら帝国書院の写真が美しく、地理を勉強して、いろいろな国に行きたいなとか、いろいろな国から来た人を迎えたいとか、ほんとうに圧倒的な美しい写真だと思って、これで地理を勉強したいなと子どもたちが思ってくれるのではないかなと思って、帝国書院がいいと思った。

山本教育長

私も帝国書院がいいと思った。最初にページを開いて、岡村委員がおっしゃったことと同じように、非常に感動的な、世界中の人間の息づかいが聞こえてくるような、そういうすばらしい写真が次から次にあらわれてくるので、こんなに生き生きと人間の生活が描かれた教科書があるんだと思って感動した。単に知識を得るだけではなくて、考える力をつけさせる、写真を見て考える、そういう教科書だと思った。

1つ言っておきたいのは、教育出版がその次にいいと思ったが、やはり写真もいい、帝国書院の次にいいと思った。一番心に残ったのは、領土問題であるが、ほかの教科書は尖閣諸島や竹島や北方領土の現状を淡々と説明しているだけに終わっているが、教育出版はその説明の最後にこう書いてある。「領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもある。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要である」。唯一こういうことが書かれた教科書で、私は、編集者の理性というか、知性というものが伝わってきて感銘を受けたということは、ぜひここで一言言っておきたいなと思った。

結論は帝国書院である。

鮎川委員長

初めて全員のご意見が一致した。私も皆様のご意見に賛成である。帝国書院がよいと思う。展示会でのアンケートの中には、写真やイラストが最近の教科書は多過ぎるというご意見もいただいているが、地理に関しては写真の美しさ、写真のすばらしさは重要だと思う。山本教育長が先ほど言った、まず迫力のある写真がすばらしい。福元委員と岡村委員も同じアンケートを見ておっしゃっていたのかもしれないが、地形図を中学校で初めて学んだという方のアンケ

ートがある。小学校でも社会科を学んできているが、地理という、歴史と分かれて専門的に学ぶ教科は、最初の出会いの教科書が大変重要だと思う。中学校で地形図を学んだという方は、帝国書院と東京書籍の地形図がすばらしいと書かれていたが、私も全くの同感であった。

5人全員が一致した帝国書院に決定したいと思うが、皆様、ご異議あるか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしということで、地理的分野の教科書は帝国書院と決定した。

では、次に、社会（歴史的分野）の説明をお願いします。

神田選定 歴史である。

副委員長 まず、東京書籍。東京書籍は、2ページごとに必ず押さえなければならぬ内容が発問で示されており、生徒に記述させるなど、言語活動への配慮がある。単元の下にまとめの課題が示してあり、生徒が自ら考える習慣をつけるように工夫されている。ページの下にはタイムスケールを置き、学んでいる時代と歴史全体との相関関係を把握しやすくしている。小学校で学習した人物や文化財を思い出そうという復習のページは、1年生向けに配慮されたものである。また、世界史の内容が連続性を持って記述されていて、ローマ帝国、中世キリスト教社会から十字軍、ルネッサンス、宗教改革の流れがわかりやすくなっている。沖縄、北海道、アイヌ、領土問題、公害問題などについては、特集ページを設け、説明している。

続いて、教育出版である。教育出版の教科書は、歴史上の人物について小学校で既習の人物と中学校で初出の人物をマークで区別している。単元タイトルの下に年代スケールを置き、扱っている時代がいつごろかを明示している。タイトルの下には学習課題が設定されていて、授業の目当てが明確になっている。学習のまとめと表現では、何々について説明しようという問いかけがあり、振り返りをしやすくしている。

続いて、清水書院である。清水書院の教科書は、教科書の本文のスペースと図版等のスペースを背景色で分けているので、生徒が視

覚的に理解しやすくなっている。また、絵画資料からは思考力を伸ばすことができるようになっており、「もっと知りたい歴史」、「歴史のとびら」で掘り下げた学習ができるようになっており、生徒の興味・関心を刺激している。章の初めには、どんな、なぜだろうと考えさせる記述があったり、小單元ごとに「まとめてみよう」があったりと、考える力、文章にまとめる力、発表する力を身につけさせることを意識した構成になっている。

続いて、帝国書院である。帝国書院は、歴史の基礎的な技能を身につけるコラム「技能をみがく」があることで、生徒がさまざまな視点から歴史にアプローチすることができる。「タイムトラベル」のページで時代の雰囲気想像しやすくなっており、「場面を探してみよう」は、資料を注意深く見る方法を教えてくれている。また、小学校で学んだ主な出来事があり、既習事項が整理しやすくなっている。単元の終わりに設定された「学習をふりかえろう」には、確認問題や説明を求める問題があり、生徒が自分で学習することを助ける復習の手引きとなっている。わかりにくい用語についても解説があり、生徒がみずから学習することを助けている。

続いて、日本文教出版である。日本文教出版の教科書は、冒頭で「小学校の歴史の授業とは違い、人物のみでなく、その人物が活躍した舞台や背景を学ぶことが中学校の歴史の授業である」と明記し、世界から見た日本や当時の文化についてわかりやすく書いている。また、歴史上の出来事がなぜ起きたのかという因果関係を明らかにするとともに、世界史との関連づけを多くの場面で行っている。歴史学習の基礎資料が最後に設けてあり、文化史の学習を深めることができる。さらに、防災・減災、公害問題、アイヌと沖縄など、これまでの日本及びこれからの日本における課題が明らかにされている。

続いて、自由社である。自由社の教科書は、日本のよさ、日本人のすばらしさが理解できる内容になっている。わかりやすい資料を掲げており、文章の起承転結がはっきりしている。コラム「もっと知りたい」、コラム「人物クローズアップ」は、歴史にさらに興味を持てる内容になっている。明治から昭和初期の写真資料をカラーにしているページがあり、カラー資料も多いので、わかりやすくなっている。また、2ページごとに発問とまとめの作業が取り入れられている。

次に、育鵬社である。育鵬社の教科書は、カラーの資料が多く、見やすいつくりであり、資料の現代語訳がわかりやすく、理解しやすくなっている。「歴史ズームイン」、「なでしこ日本史」などのページを活用することで、歴史的事象や人物を掘り下げて学習することができる。領土問題、2020年東京オリンピック・パラリンピック、東日本大震災などに言及し、現代日本の課題とこれからの日本や日本人の果たすべき役割について考えさせるものとなっている。

最後に、学び舎である。学び舎の教科書は、大判の教科書のため見やすくなっている。また、図版に説明が少なく、生徒に考えさせることができるつくりになっている。東京多摩地区をテーマにした内容を多く取り入れているのも特徴的である。写真資料が豊富で、時代に応じた絵画資料を用いており、時代をイメージしやすい。日本の社会、政治経済、日本の文化・宗教、世界の動きなどが一目で見られる年表がわかりやすく、東日本大震災の記述が2ページにわたっており、防災教育の観点から学習しやすくなっている。

以上である。

鮎川委員長

委員の皆様、ご質問はあるか。

では、続いて協議に入りたいと思う。ご意見をお願いします。

福元委員長
職務代理者

私は帝国書院の教科書が使いやすいのではないかと思います。

まず、小学校のときに学んだ学習を振り返らせて思い出させている。そしてその時代の特徴的な雰囲気というものがよく出た、「タイムトラベル」というところに図があって、それを見ていると、小学校のときの学習が思い出され、また、その図にはその時代にすっと入っていけるような雰囲気がある。導入が非常にやりやすいのではないかなというふうに思った。また、学習課題とか、それから確認問題とか、説明を求める問題等で学習を振り返ることもできるし、ひとりでもどんどん学習していけるような、そんな教科書ではないかなというふうに感じて、帝国書院を選んだ。

鮎川委員長

ほかの皆様、ご意見をお願いします。

渡邊委員

私も帝国書院がいいと思った。まず、近代の歴史の認識というか、

それが正しく正確に書かれているということである。また、バブル崩壊後の日本の経済についても詳しく書かれており、なぜ現代の今の日本があるかということが非常にわかりやすくなっていると思った。

以上である。

岡村委員

私も帝国書院がいいと思った。歴史という中心的なところが、中心と記載されている、例えば江戸時代だったら徳川家康とかいろいろあるが、帝国書院だと、例えば「変わる都市と農村」というところで、女子工員の生活は何時間ぐらい働いているかというのが出たりとか、なぜ満州移民で長野県の人がいっぱい行ったとか、普通の生活者のことが書いてあり、すごく興味深く、そこから入って行って、なぜ日本が戦争に入ってしまったとか、そういうきっかけをつくるのに庶民の生活をもとにしている。それが中学生にすごくわかりやすいかなと思って、歴史を勉強するきっかけになるのではないかなと思った。それとあと、世界遺産と富国強兵とかが重なって、この前、世界遺産に承認されたが、その光と陰とか、ちょうどタイムリーな内容だなと思った。

山本教育長

8社あったわけであるが、際立って個性的な教科書が幾つもあった、文科省は随分幅が広いんだなというふうに思ったわけである。それで、そもそも歴史の授業の重要な役割というのは何かということを考えてみると、我々人類が歩んできた過去の歴史、プラスの側面、マイナスの側面さまざまあるわけであるが、それを客観的に評価して、未来のよりよいあるべき姿を考えていこうというのが歴史の授業の役割だと思っている。そういう意味で内容的に最もバランスがとれているなと思ったのが、帝国書院である。皆さんと意見は一致している。

以上である。

鮎川委員長

歴史も皆様のご意見が合っており、帝国書院がよいというご意見で間違いはないか。

私も同意見である。福元委員は小学校の校長先生のご経験から、小学校の授業からのつながりもお考えくださったご意見をいただき、なるほどと思った。福元委員がおっしゃった振り返りの部分、

私も帝国書院が大変すばらしいと思う。用語の説明なども大変わかりやすく、例えば授業を休んでしまって、自分で用語の説明を読んだときに、ひとりでもわかる記載の方法だと思った。

歴史は、5人全員の意見一致ということで帝国書院に決定してよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしということで、社会（歴史的分野）は帝国書院に決定した。

では、次に、社会（公民的分野）の説明をお願いします。

神田選定 公民分野、7社ある。

副委員長 まず初めに、東京書籍についてである。東京書籍は、現代社会の見方や考え方の問題提起が興味深く学習できる。単元の最後にキーワードを使って説明させる課題があり、言語活動を意識した構成になっている。「公民にアクセス」では身近な話題を豊富に提供しており、学習に広がりを持たせている。また、誰を市長に選ぶべき、コンビニエンスストアの経営者になってみよう、違いの違いを追究しようなど、自分自身の考えをまとめ、発表する時間を設けるなど、言語活動への配慮がされている。環境問題、パレスチナ問題と中東平和、領土問題、東日本大震災などに言及して、生徒の理解を深めている。

続いて、教育出版である。教育出版の教科書は、冒頭に、公民で何を学ぶのか、意識したい具体的な学び方などが書かれていて、学習の意味を押さえている。最終ページの学習資料は、難解な用語にアンダーラインを引き、説明を平易な言葉で記入していて、わかりやすいものとなっている。終章、「私たちにできること」では、公民で学んだものの見方や考え方をもとに、未来への私の約束を作成することで学習のまとめができるようになっている。震災、東アジアの領土問題、TPP交渉など、身近で新しい問題についても取り上げている。

続いて、清水書院である。清水書院の教科書は、写真、グラフが充実しており、視覚的に引きつける工夫がされている。わかりやすい言葉で書かれていて、読みにくい漢字にはルビも振ってあるので、

生徒が内容をつかみやすくなっている。また、何々してみよう、どうなっているのだろうという今日の課題が示されているので、生徒が授業の狙いをつかみやすくなっている。ヘイトスピーチ、TPP、インターネットによる選挙運動など、新しい問題についても取り上げている。

続いて、帝国書院である。帝国書院は、導入でイラスト、写真を使えるようになっており、生徒の興味を引き出しやすいように構成されている。社会的弱者への差別、人権問題についても丁寧に触れている。非正規雇用や小水力発電の推進など、現代的な話題が「クローズアップ」で取り上げられている。また、地理・歴史の振り返りの欄があり、3つの分野を結びつける学習がしやすくなっている。領土問題、地域紛争、現代社会に残る差別など、現代社会の課題に触れていて、授業でも身近な題材として取り上げやすくなっている。

続いて、日本文教出版である。日本文教出版の教科書は、編の最初に「ナビ」が設けられ、学習の基礎となる考え方を述べているので、授業の導入として使いやすくなっている。図、グラフ、表、絵、写真が充実しており、資料集を併用しなくても十分な量となっている。また、各ページに学習の確認と活用があり、文章を書かせる課題が設定されていて、生徒が学習内容の理解を深めることができる。情報スキルアップのページがあり、資料活用能力を伸ばすのに効果的である。

続いて、自由社である。自由社の教科書は、日本や世界各国が抱える問題に触れて、多角的な視野から物事を捉える構成になっている。日本と世界を比べる表やある事柄の達成に尽力した人物の写真を掲載して、理解を深めさせるようになっている。また、インターネットによる投票、憲法改正、自衛隊の海外派遣、拉致問題など、ニュースで多く取り上げられる事柄にも触れている。家族から学校、学校から地域社会、地域社会から国家という順に学習していくのが特徴で、生徒の意識が自然に広まっていく工夫がされている。

最後に、育鵬社である。育鵬社の教科書は、写真資料が豊富であり、現代日本が抱えている問題にも多く言及している。私は内閣総理大臣という仮定で国づくりの構想から発表に至るまでの道筋が示されているなど、わかりやすい記述となっている。また、学習の中で政策の違いを比較してどの政党を支持するかというディベートがあり、思考・判断・表現の力を育てるための学習活動の工夫が

されている。領土問題、防災・減災、人権問題、個人情報の流出など、今日的課題にも言及し、生徒への意識づけができるものとなっている。

以上である。

鮎川委員長

委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。
では、協議に入る。ご意見願います。

福元委員長
職務代理者

私は東京書籍がいいかなというふうに思った。「公民にアクセス」とか、「深めよう」とか、「公民にチャレンジ」とか、「調査の拡充」、いろいろあり、それが学習の流れをスムーズにしている。教材とか資料もわかりやすい。学習が進めやすいということが一番の大きな理由である。また「現代社会の見方・考え方」の問題提起が興味深く学習できる。こういうものがやはり公民を学習する上で重要なかなというふうに感じる。学習しやすく、公民の狙いも達成できるのではないかなと思って、東京書籍を推薦する。

渡邊委員

私も東京書籍がいいと思う。つなげたい日本伝統文化ということで、スカイツリーと五重の塔の技と知恵を例にとって説明がされている。それから、さまざまな企業の形態ということで、株式会社、持分会社、それから唯一有限会社が載っていたのが東京書籍ということで、ほかの教科書には有限会社という表記はなかったので、特に良いと思った。

岡村委員

私も東京書籍がいいと思った。やはり公民の主な目的というか、これは人権問題だと思うので、この中で東京書籍が自由権、社会権、公民権と並べていて、すごく学習しやすいし、写真とかも非常によく、平等権だとアイヌ民俗の方を出されたりとか、ハンセン病の方の差別をなくそうとかいうのもあり、すごくわかりやすい。その他には、ぜんそくの中学生在が署名を集めて路上禁煙を図ったとか、そういう自分の権利を主張したいとか、人権保障を確かなものにするためにはどういうことを学ばなければいけないか、これからの人権保障をどうするかなど、マララさんの話とかが大きく取り上げられていて、非常にこれは勉強しやすい本だなと思って、ぜひ東京書籍と思った。

山本教育長

7社のうち、私は3社がよくできているなと思った。東京書籍と帝国書院と日本文教出版である。生徒の興味・関心を呼ぶような資料が非常に魅力的なものが多かったと思う。それから、民主主義とか、さまざまな政治問題とか、平和のこととか、現代社会のさまざまな問題について深く考えさせたり、それから話し合いをさせたりというような教材がたくさんあって、子どもたちにしっかりと現代社会の生き方を考えさせられるよい教科書だなと思ったので、その3つのうちだったら、どれでもいいだろうと。皆さんのおっしゃるとおり、東京書籍で結構だと思う。

鮎川委員長

4人の皆様が東京書籍、そして山本教育長は、東京書籍に加えて帝国書院と日本文教出版も同じぐらいよいというご意見ということで間違いないか。

私も皆様と同じように東京書籍がよいと思うが、ほかに2つよいと思う教科書がある。東京書籍のほかに、山本教育長がおっしゃった帝国書院も良い。地理や歴史の振り返りの欄があるので、この3分野を結びつける学習ができる教科書ということで、帝国書院もよいと思った。また、清水書院に関して、発展的な内容で「もっと知りたい公民」とか、「深める公民」という、発展的な学習が記載されているので、新聞を読んだり、学習を深めたいという意欲を持っているお子様にもよいと思った。

東京書籍がよいというご意見は全員一致である。展示会におけるアンケートの中に東京書籍に関してのご意見で私が大変共感した部分があるので、紹介させていただく。長い文章のうち一部だけのご紹介とさせていただくが、「環境問題、人権、平和など、人を大切にしていくことや自分たちに何ができるか考えさせてくれる」というご意見がある。この部分、共感した。導入の部分に関して、「生徒に興味を湧かせ、知りたいという気持ちにさせてくれる工夫がある」というご意見もある。この部分も私は共感したので、紹介させていただく。

山本教育長と私が、ほかの教科書も良いという思いはあったが、5人全員一致で東京書籍でご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 よろしいか。それでは、社会（公民的分野）の教科書は東京書籍と決定した。

では、続いて、地図の説明をお願いします。

神田選定 地図、今度は2社である。

副委員長 まず、東京書籍であるが、東京書籍は、色合い、発色がやや薄目で、地名等の書き込まれた情報を読み取りやすくしている。グラフや写真は大き目でわかりやすく、歴史・公民分野でも幅広く活用できる資料が盛り込まれている。ジャンプという記述で地域の資料図から世界や日本全体の資料図へと関連づけ、多面的・多角的な考察ができるようにしている。また、地名にはルビが振ってあり、地名が探しやすくなっており、世界の文化、都道府県の産品と名称、お国自慢など、興味を引く内容もある。

次に、帝国書院であるが、帝国書院は、色分け、発色が鮮明で見やすく、歴史や公民分野でも幅広く活用できる資料が盛り込まれている。「地図を見る目」という囲みをつくり、地図読み取りの着目点を教えており、可能な限り縮尺が統一されている。世界の国々と日本の大きさや緯度による位置関係の比較ができるように、世界地図の随所に同緯度、同縮尺の日本が掲載されている。アジア州では日本からヨーロッパに行くための最短航路が描かれていて、東西南北を学ぶのに役立つようになっている。

以上である。

鮎川委員長 委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。

では、協議に入る。ご意見をお願いします。渡邊委員、いかがか。

渡邊委員 それでは、私は東京書籍がいいと思った。というのは、まず、先ほど国語の部分で僕がここにいるということで、まず、小金井が載っているかどうか非常に興味があり、もちろん載っているが、東京書籍は、野川であるとか、貫井神社、武蔵野公園、仙川、その他いろいろ、大きくはないが、明確に書いてある。それから、海と陸の面積比とか、そういったものは大体同じようにあるが、まず、小金井が載っているかどうかという基準で東京書籍を選んだ。

山本教育長 私は帝国書院のほうで資料が豊富で見やすいかなと思った。また、地理の教科書と一致していたほうが使いやすいんだらうなということ帝国書院。

岡村委員 私も、帝国書院のほうで色がはっきりしている。ちょっと質問いか、東京書籍は色がすごく薄い、これは色覚異常の場合の対応としてはどうなっているか。

神田選定副委員長 その点については、配慮がされた上で字を見やすくしているということである。

岡村委員 色覚異常の場合も対応していると承知した。帝国書院は、とても色がきれいで、いい色合いでいいと思う。私は帝国書院がよい写真とかがあっていいと思う。

福元委員長職務代理者 私も帝国書院がいいかなと思っている。歴史、公民でも活用できる資料を盛り込むなど工夫され、資料が多くて使いやすい。色分け、発色が鮮明で見やすい。それから、「地図を見る目」の囲みで地図の読み取りの着眼点を教えている。非常に見やすく、使いやすいという、そういう理由で帝国書院でいいと思う。

鮎川委員長 渡邊委員が東京書籍、そしてほかの3名の委員の方は帝国書院がよいというご意見。

私の意見は帝国書院がよいと思う。確かに渡邊委員がおっしゃったように、小金井が細かく載っているというのは大変魅力ではある。発色に関して、東京書籍は薄い発色で、情報がとても読み取りやすい、文字が読み取りやすいという利点がある。帝国書院は発色が鮮明であり見やすい。福元委員も触れられたが、東京都教育委員会が出している教科書調査研究資料の230ページに資料の数、索引に記載されている地名数が掲載されている。資料の数、索引に記載されている地名数は、世界、日本、全てが帝国書院のほうで圧倒的に多くなっている。地図帳に関しては情報量が多いほうがよいと思い、帝国書院がよいという結論を出した。

ということで、渡邊委員、少数意見であるが。

渡邊委員 結構である。意見であるから。

鮎川委員長 よろしいか、4対1で。

渡邊委員 構わない。

鮎川委員長 それでは、少し意見が分かれたが、多数の委員が地図は帝国書院がよいということだったので、帝国書院に決定ということでよろしいか。ご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 それでは、地図は帝国書院に決定する。
では、次に、数学の説明をお願いします。

刀根選定
委員長 それでは、私のほうから数学をご報告する。数学は7社になる。
まず、東京書籍である。東京書籍は、教材や資料が正確でわかりやすく、教科書の色使いが落ちついていて、見やすくなっている。基礎的な内容から発展問題まで発達段階に応じた分量・内容となっている。また、数学的活動を効果的に行えるように、意図的に課題等を設定している。正答だけではなく、誤答例も掲載されており、学び合いのページを設けて、友達の考えをしっかりと話し合っ、自分の考えと比べられたりできるような教材が用意されている。

続いて、大日本図書である。大日本図書は、全体的に教材はわかりやすく、基礎的な内容から発展問題まで発達段階に応じた分量・内容となっている。巻末の解答が充実していて、生徒が発展学習として自分で学習していく際も使いやすくなっている。原則、見開き2ページで1つの内容が構成されており、各章の初めのページに目次があるのが特徴的である。

続いて、学校図書である。学校図書は、資料が正確でわかりやすく、カラーのイラストを多く使って説明している。また、数学的な表現を使って筋道を立てて説明し、記述することを狙っているページが充実している。基本学習に重点が置かれており、解説もわかりやすい。基礎的・標準的な問題を多く扱っており、例が初めて学ぶ

生徒に配慮してあり、丁寧に記述されている。

続いて、教育出版である。教育出版は、丁寧な言葉で説明されており、カラーが多く、視覚的に捉えさせることで学習の理解を促している。また、導入のページ「Let's Try」、「数学ミニ事典」、「チャレンジコーナー」、「数学の広場」など、いろいろなコーナーで数学の話題を取り上げている。各単元の最初の導入が充実しており、導入の話題、既習事項の復習、「Let's Try」と3ページを使っており、生徒の興味・関心を引いている。

続いて、啓林館である。啓林館は、イラストの彩色が抑えられている。習熟度別少人数指導を行う上で、巻末に発展教材の具体的事例が多く記載されている。同じく、巻末には繰り返し練習があり、授業中に早く終わった人が取り組めるように配列されている。「みんなで話し合ってみよう」などのページも設けて、友達の考えを知ったり、話し合っ自分の考えと比べたりできる教材が用意されている。また、別冊になるが、「Math Naviブック」、こういったものがあり、切り離して使えるのも特徴的である。

続いて、数研出版である。数研出版は、問題集的な位置づけで教科書を扱うことができる。巻頭に既習内容を振り返られるようにまとめ・復習問題が置かれている。基礎的な内容から発展問題まで発達段階に応じた分量・内容であり、練習問題が豊富に用意されている。

最後に、日本文教出版である。日本文教出版は、全体的に教材がわかりやすく、基礎的な内容から発展問題まで発達段階に応じた分量・内容となっている。各単元の導入の際に復習として振り返り問題が記載されている。また、各章の終わりに繰り返し練習があり、生徒が各自で既習内容の確認ができるようになっている。

以上である。

鮎川委員長

ご質問はあるか。よろしいか。

では、協議に入る。ご意見お願いします。

渡邊委員

私は東京書籍がいいと思う。まず、生活と関連していろいろな数学の理解を深めるような仕組みになっているということで、例えば正と負の数だと、富士山がプラスの3,776メートルで、マイナスが9,780メートルの伊豆小笠原海溝最深部ということで、そ

れから比例と反比例では、ポップコーンのお店に並ぶ行列の列で何分待てば自分の番が来るとか、扇型の面積を求めるのに、自動車のワイパーの扇型の面積を求める例。それから、確率では、ホエールウォッチングを見る確率である。それから、3月の平均気温と桜の開花日の予測、これは非常に私も実際参考になるなど思った。ということで、それ以外にもいろいろ載っているが、要するに数学がいかに自分の生活と身近にわかりやすく理解できるかということで、非常に説明がいいと思った。

山本教育長 私は、先ほどの公民と同じように、3社がいいと思った。啓林館と日本文教出版と東京書籍である。中でも特に啓林館の教科書が、今、渡邊委員がおっしゃったように、実生活の中で数学的な事象の非常に魅力的な写真をたくさん載せていて、数学というのは実際の生活の中でこれにかかわってくるのかなと感じさせる、センスのいい教科書だなど思った。また、啓林館の付録が魅力的である。それから、習熟度別に対応できるようになっているので、もしかしたら小金井の子どもたちに合うかなと思ったので、3社のうちでは啓林館が一番いいと思ったが、ほかの2社でも大丈夫である。

鮎川委員長 すまない、今、日本文教出版もおっしゃっていた。

山本教育長 はい。東京書籍と啓林館と日本文教出版。

鮎川委員長 良い点というのは。

山本教育長 説明のわかりやすさ、それから問題の分量等、総合的に見て、この3社がいいかなと思ったが、啓林館に一番魅力を感じた。

岡村委員 私は東京書籍がいいかなと思ったがマイナスやプラスなど、やはり富士山、高さのほうは温度よりわかりやすいと思った。東京書籍は高さ・低さでやっていて、マイナスというのは温度とかでわかりづらいから、そちらのほうはわかりやすいかなと思ったのと、破れたレシートで何を何個買ったか想像するというのがあって、それを知っていたら、XYを使って簡単にできる。それでXYを使いなさいという、ほんとうに身近な問題、子どもたちがああそうかと思う

ようにするなというのを思った。それが2つ目である。あと、アンケートである。子どもの気が散らないように、気が落ちつくような教科書、地味な教科書というか、そういうのを望むというアンケートの結果があったが、落ちついているから、あまり派手な色を使わなくて、数学はこれぐらいがいいかなという気がしたので、東京書籍。中に私でもちょっと簡単過ぎるかなというのもあって、内容的にもちょうど小金井の子どもたちが習うのにこれぐらいがいいかなと思った。

福元委員長
職務代理者

私も東京書籍がいいと思っている。教材や資料が非常にわかりやすいというか、使いやすいと感じている。課題設定にしろ、それから振り返りの学び合いのページにしろ、ちょっと確認とか、問題のポイントとか、子どもたちが自学自習しやすいのではないか。数学の自学自習はなかなか難しいが、これだと進めやすいのではないかなというような感じがしている。

以上である。

鮎川委員長

ここまでのご意見、東京書籍は4人の委員の皆様全員一致、加えて、山本教育長は啓林館が一番魅力的と、そして日本文教出版もよいということである。

山本教育長

東京書籍もいい。

鮎川委員長

皆様がよいとお考えの東京書籍、私も同意見である。小金井市の調査選定資料にも書かれているが、誤答例も記載されており、「数学マイノート」というノートのとり方の見本もわかりやすく、教科書の随所随所に、ノートをとるときに見本になるような書き方、証明の仕方、問題の解き方など、一番わかりやすいと思った。先ほど山本教育長もおっしゃった啓林館の、巻末の発展教材はすばらしいので、啓林館も良いと思う。岡村委員が先ほど東京書籍はやさしいとおっしゃった。

岡村委員

目に優しい、地味なというか、和らぐような、アンケートであまり浮わつくような教科書はだめみたいなことが書いてあったが、数学こそ落ちついたほうがいいので、ちょっと落ちつきのある色合い

かなと。ちょうど数学にはこれぐらいの、理科とか社会とか、ぱつと入ってくればいいけど、数学はこんな感じがいいかなと思った。

鮎川委員長 わかった。

岡村委員 気が散らないようにお願いするとアンケートに書いてあった。

鮎川委員長 アンケートで複数の方から、写真やイラストが多過ぎる、気が散らない教科書がよい、そのようなご意見もあった。教科によってはビジュアル的に美しい教科書、見やすい教科書、写真がきれいな教科書がよいこともあるが、数学に関しては、岡村委員がおっしゃるとおり、落ちついて取り組める教科書が良いと私も同意見である。

アンケートの中には東京書籍の数学教科書は物足りないというご意見もあったが、生徒に物足りなさを感じさせない授業は、小金井の学校の先生方が工夫してくださっているので、その点をご心配いただかなくて大丈夫と私は思っている。

そうすると、東京書籍は5人全員の委員の意見一致ということで、特にご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしということで、数学の教科書は東京書籍と決定する。

それでは、間もなく3時になろうとしているが、ここで休憩を入れたいと思う。皆様、ご異議ないか。

それでは、15時10分まで休憩としたいと思う。よろしく願います。

休憩 午後2時57分

再開 午後3時10分

鮎川委員長 再開する。

次に、理科の説明をお願いします。

刀根選定 それでは、理科についてご報告する。理科は5社となっている。

委員長 まず、東京書籍である。東京書籍は、実験や観察にきちんと取り

組まなければ考察の内容がわからないようにすることで、生徒が学習に向き合えるように工夫されている。また、できる限り身の回りの事象を扱うことで、生徒が興味・関心を持って取り組めるようになっている。思い出そうという形で学習内容が書かれている箇所があり、学習した学年も書かれている。表記では注意点が目立つ色つきで明確に示されており、実験の説明がカラーのイラスト入りでわかりやすくなっている。実験の結果などはすぐに示さないで、考えさせる点や答えを出して覚えることを主とししないで、これがわかったら次にどうなるかなど、生徒に考えさせるように工夫されている。

続いて、大日本図書についてご報告する。大日本図書は、記述も図もシンプルでわかりやすく、写真と文章のバランスがとれていてわかりやすい。実験結果の色表示についても、実際の実験と同じ色に近く、正確である。3年生の教科書には3年間のまとめの資料があり、3年間の復習ができるようになっている。自然分野では東京及び東京近郊を題材とした写真などが使用されており、生徒が身近に感じることができる。単元のまとめ、単元末問題が充実しており、例題や解き方が詳しく載っている。発展の内容も充実していて、学習意欲のある生徒にも学習しやすい内容になっている。

続いて、学校図書である。学校図書は、単元に入る前に小学校の内容に触れており、図や写真も多く、学習内容が理解しやすいように工夫されている。実験方法については、手先の図まで載っていて、手順がわかりやすく、実験結果は過剰な説明がないため、授業で扱いやすいものとなっている。単元を学んだ後に職業紹介という形で生活につながるような工夫がされている。指導要領範囲外の発展的内容は、図や写真を用いてわかりやすく表記してあるので、生徒の興味・関心を引きつけるものとなっている。資料として3年間で使用する実験道具の使用方法が載っていたり、単元の初めに今まで学習した内容をチェックしたりできるようになっている。

続いて、教育出版である。教育出版は、図や写真が多いことで理解しやすく工夫されている。例えば、天体の学習では課題を疑問文の形で大きく見出しとするなど、スケールの大きいものは写真なども大きく扱われている。また、科学の偉人についての扱いが多くある。重要語句の考察についても、きちんとまとめてあり、赤字で書かれている。重要な箇所は赤い字で記載されており、そのまま赤シートを使用して学習できるようになっている。

最後に、啓林館である。啓林館は、発展的な補足が多く、高校理科へのつながりを意識している。高度な内容までしっかり記述しており、教科書をしっかり読むことで生徒の理解が進むように工夫されている。「マイノート」という小冊子が附属しており、図や表を使った問題が1冊に集まっているので、取り組みやすくなっている。また、単元などの配列が思考の流れに沿った順になっており、図も詳しく、ポイントの式なども強調されていて、見やすいものとなっている。章末のまとめや「マイノート」でキーワードにカラーマークがついており、付録のカラーシートを当てるとその文字が見えなくなるなど、生徒が学習しやすい工夫が見られる。

以上である。

鮎川委員長

委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。

それでは、協議に入る。ご意見お願いする。岡村委員、お願いします。

岡村委員

私は学校図書がいいかなと思った。それはやはり理科なので、デザインと写真がきれいだということ考えた。生命と維持する仕組みのところの赤血球・白血球・血小板の電子顕微鏡写真があって、それを見ると、ちょっと生徒がそういうのを勉強したくなるなという気持ちになるかなと思った。啓林館もいいと思ったが、ステップアップのところの結構内容が多くて、最初から本文に取り入れたほうがいいかなというのを思った。あと、東京書籍の臓器の色があまりにいい色ではないので、逆にみんな興味を失ってしまうのではないかなと思って、理科は、デザイン、配置の仕方とかということと、あと実験のときの手順とかがよく書いてあるので、学校図書がいいかなと思った。

福元委員長
職務代理者

私は、先ほどの説明の中でもありましたが、学習がしやすいという点から大日本図書と東京書籍が、授業を進めやすいのではないかなと思った。学習内容の整理とか確かめとか、確かめの活用とか、「学びを広げよう」とか、それから「科学の本棚」とか、そういう東書の非常に学習しやすい部分にひかれた。大日本のほうでは、学んだことを生かそうとか、まとめとか、単元末の問題とかで、幾つか解答が詳しく出ていたり、「サイエンスランド」とか、そういう工夫

がよい。こういう教科書だったら子どもたちも自主的に学習できるなというふうに感じた。

鮎川委員長 いきなり意見が分かれてしまって、どうか。

渡邊委員 私は東京書籍がいいと思った。というのは、地震の起こる仕組みということで、身近にある石けんとかこんにやくを使って実際に地震の起こる仕組みを勉強すること。それから、命をつなぐ心臓血管手術ということで、須磨博士の記事が載っていて、須磨博士は胃の研究者であったが、途中から心臓病研究に移り、胃の動脈を使った心臓手術を日本で最初にあみ出したということで、発想の転換が新しい医療に役立ったという例が載っていた。それから、物体の持つエネルギーということでボーリングである。ボーリングは非常に身近なスポーツであるが、制止から人力によってピンを倒すという運動エネルギーが発生するという説明が、非常にわかりやすく載っていた。それから、宇宙と地球ということで、シミュレーションを使って地球のこれからの未来予想も一部載っていたので、東京書籍を推薦する。

山本教育長 5社とも大変よくて甲乙つけがたしというところだったので選ぶのに苦労したが、啓林館と東京書籍、強いて言えばこの2冊かなと思った。特に啓林館のほうは、先ほど説明にもあったように、高度な内容までしっかりと説明してあるということと、それから「マイノート」というのがあって、自学自習に向いているから、おそらく小金井の生徒で理科が好きな子は、どんどん自分で読み込んでいける教科書なのかなと思ったので、強いて言えば、啓林館が1番で、東京書籍が2番というところである。

鮎川委員長 すまない、ここまでで整理させていただく。東京書籍は福元委員と渡邊委員、山本教育長の2番目のお考えということでよろしいか。大日本は福元委員、学校図書は岡村委員、啓林館は山本教育長と岡村委員も押している。

岡村委員 押しているわけではないが、ステップアップにいっぱい書いてあるが、地のところにもっと書いてほしい。内容はすごく高度である

が、分かれているから子どもにとっては読みにくいかもしれない。内容は、ほんとうに啓林館は量が多いと思う。啓林館でもいいかなと思う。

鮎川委員長 私自身が調査研究をしてよいと思ったところは、大日本、東京書籍、啓林館の3つである。岡村委員の意見と全然かみ合わなくて申しわけない。東京書籍に関しては、今、皆様がおっしゃったとおりである。大日本に関して、いい点が幾つもある。東京都教育委員会の教科書調査研究資料の中で観察・実験を取り上げている箇所が大日本が一番多い。ほかの少ないところと比べて50以上の差がある。発展的な内容を取り上げている箇所に関しても、大日本は111と圧倒的に多い。実験・観察は理科の基本という思いがあり、大日本もよいと思っている。啓林館に関しては、先ほど山本教育長がおっしゃったことと重なってしまうが、発展的な内容がある。問題集、ドリルのように振り返りにも使える「マイノート」がある。通常、数学、英語などはご家庭で問題集を買われることも多いと思うが、理科の問題集まで用意されるご家庭は少ないというお話も保護者の方から伺ったことがある。「マイノート」はそのような使い方もできるのでよいと思う。整理をすると、大日本と啓林館は2名の委員が、そして東京書籍は、山本教育長の2番も入れると、4名の委員がよいということになるが、岡村委員、いかがか。

岡村委員 東京書籍の内蔵の色がいい色ではないと思う。

鮎川委員長 先ほどそうおっしゃっていた。

岡村委員 色が茶色っぽくて、この色はあまりすてきではない。実際の色に似ている。実際の色に近いので、ちょっとリアル過ぎて、動脈・静脈とかはいいが、肺とかはあまりいい色ではない。今の子どもたちはどう思うだろうか。すごくそっくりといたらおかしいが、肺とかこんな色だし、私が医師ということで実際に見たことがあるからそう思うのだろうか。

あまりに似過ぎていて、リアル過ぎるように感じてしまう。見たことがない人はそれもあまり感じないのだろうか。

- 鮎川委員長 どうなのか、私も実物を見たことはないが。
- 岡村委員 私はリアル過ぎると思ってしまった。そのものの色、そういうのを勉強したほうがいいのか。率直に中学生は引いてしまうかなどかと思ってしまった。
- 鮎川委員長 中学生の感じ方というのは、どのように考えてらっしゃるのか。
- 刀根選定
委員長 実際に子どもたちがどう受け取るかというのは、実際に手にしてみないとわからないところかなと思うが、ただ、これまで子どもたちに接していて、やはり現実に見たわけではないので、こういったものだろうというような思いで見ていくだろうし、そしてやはり本物に近いというのは子どもたちにとってとても意味があることのようにも思うので、子どもたち自身感じ方はそれぞれ違うとは思いますが、わりとそんなに心配要らないところのような気もしている。
- 以上である。
- 岡村委員 やはり、心配しすぎなくてよいと考える。
- 鮎川委員長 それ以外には何かあるか。学校図書がよいというご意見はもちろん先ほど伺ったが。
- 岡村委員 内容は東京書籍で、でも、別に啓林館は内容がすごく多く、どちらもいい。啓林館はたくさん内容があるが、本文に書かないで、ステップアップのところに書いてあるから、最初から本文に書けばいいのと思った。迷ってしまうが、啓林館がいいと思う。
- 鮎川委員長 啓林館がよいとなると、今度は啓林館が私と山本教育長を含めて3名、東京書籍4名、大日本が2名ということで、どのように考えたらいいか。教育委員5名いて、山本教育長、福元委員は学校の校長先生のご経験、あとの3人はレイマンということになるが、お医者様、理工学部のご出身で、理科に関しては皆様それぞれのお考えがあると思う。単に4名が一番多いから決めてしまってよいか、それとももう少し議論を重ねたほうがよろしいか、いかがか。東京書

籍4名だが、山本教育長は、この4名のうち一番押しではない。もう少し議論を重ねていただいてもいいか。ご意見お願いします。

山本教育長 私は東京書籍も非常にカラーのきれいな資料が豊富でいいと思っているので、お二人が東京書籍を1番に押しているので、私も東京書籍のほうを啓林館と同じように1番にすれば、3票になる。

鮎川委員長 私も入れて4票になる。

岡村委員 東京書籍のネガティブ発言を私に取り下げている。

鮎川委員長 ということは、5名の委員みんなの意見一致という形で、東京書籍に決定するというご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしということで、理科の教科書は東京書籍と決定する。では、次に、音楽（一般）の説明をお願いします。

刀根選定 それでは、音楽（一般）についてご報告する。2社になる。

委員長 まず、教育出版である。教育出版は、基礎的なことを習得しやすく、親しみやすい教材が取り扱われている。写真や資料などが豊富にあり、丁寧に解説しており、共通教材の曲に出てくる歌詞の実物がカラー印刷されていて、わかりやすくなっている。また、活動のポイントを押さえていて、表現や鑑賞の学習とかかわらせた活動に配慮した内容となっている。「ブルタバ」を第1学年で取り扱っており、曲の構成や楽器に重きを置いていることがわかる。全体としてカラーユニバーサルデザインになっており、資料集のように解説がたくさんあるのが特徴的である。

続いて、教育芸術社である。生徒の興味を引く新しい曲が多数掲載されている。いろいろな作曲家の作品があり、バラエティーに富んでいる。また、イラストやカラーが豊富で、ポイントが絞られており、見やすく、生徒の学習意欲や集中力を高めるものになっている。歌唱教材が充実しており、指導の狙いが適切である。「ブルタバ」を第3学年で扱い、歴史背景など、深い内容に踏み込んでいる。

学校行事への参加の糸口やヒントとなる指揮法や発声法が具体的に記載されている。A B判となっており、楽譜や写真などが見やすく配置されていて、変声期への配慮等もされている。

以上である。

鮎川委員長 委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見お願いします。

岡村委員 私は教育出版がいいと思った。それはすごく絵がきれいで、ふるさととか、そういう歌、夏の思い出とか、きれいな写真と詩と、音楽というのはやはり情感に訴える教科なので、教育出版のきれいな絵を見て、きれいなやつ見て、すごく歌いたくなる気持ちがいいなと思った。

福元委員長 職務代理者 私は教育芸術社がいいのではないかなと思った。調査研究資料などをよく読ませていただいたが、ここにもあるように、ポイントが絞られており、見やすく、生徒の学習意欲を高めるものになっているとか、歌唱教材が充実しており、指導の狙いが適切であるとか、それ以外には吹き出しの活用なんかもうまくやっていた。教育芸術社がいいかなと思っている。

渡邊委員 私は教育出版がいいと思った。最初にページを開いてちょっとびっくりしたが、大切なものは目に見えないと書いてあって、音楽を伝えるには楽譜には書かれていないことが大切だと書いてある。実際に本を開いていくと、非常に写真とかイラストが多くて、やはり心理的な面に与える影響というか、私のレベルでは難し過ぎてわからないが、そういった意味でいろいろな写真があって、音楽に対する関心を深めるような構成になっているのではないかなと思った。

山本教育長 結論から言うと、教育出版がいいと思う。理由は3つあって、曲想に合った、楽譜に合った非常に美しいイラストとか写真が引きつける。おそらく生徒たちが情景を浮かばせながら楽しんで歌えるんだろうな。それから、資料集のような解説がたくさんあるという説明がさっきあったが、ここではやはり圧倒的に教育出版のほうが音楽に関する丁寧な説明を行っている。それから、最後であるが、見

開きのページが非常に迫力があって、子どもたちに訴えるものがある、総合的に子どもたちが音楽を好きになる、楽しめるような教科書のつくりになっていると思う。

以上である。

鮎川委員長 山本教育長、渡邊委員、岡村委員が教育出版、福元委員が教育芸術社ということで、意見が分かれているが、私の意見は教育芸術社がよいと思っている。教育出版の写真はとても美しく、音楽とともに芸術という点でもこのグラフィカルな美しさに引かれるものはある。私個人の考えでは、音楽に関して中学生の場合は、各自の生徒の体験もしくはそのときの気持ちなどにより、音楽の趣を味わってほしいという思いがある。美しい写真があると、そちらのイメージがついてしまうかと思う。これは写真やイラストに関しての私の意見であるが。細かな点では、教育芸術社は男の子の変声期についての説明が、書かれている。そのような細かな点で幾つかよいと思う点もある。ここで意見が3対2ということで分かれてしまった。福元委員と私が少数派になる。

岡村委員 すまない、これは器楽も一緒にやるのか。

鮎川委員長 いや、それは別である。

岡村委員 シリーズではないのか。

鮎川委員長 シリーズにはなっている。庶務課長、採択は別々で問題ないか。

河田庶務課長 はい。

鮎川委員長 音楽（一般）と（器楽）は採択が別なので、今は音楽（一般）の採択となる。

福元委員長 職務代理者 教育出版のほうも、決して悪いわけではなくて、ただ、調査研究資料なんかを読み込んでいくと、どちらかという、教育芸術社のほうが使いやすいのかなと思って、これがいいと言ったわけで、教育出版をだめだと言ったわけではない。だから、今、3人の方の説

明を聞いていると、なるほど、私もそういう点はそう思うなという部分がある。教芸に固執するわけではない。どちらもいい教科書だと思う。

鮎川委員長 私も、先ほど自分の意見を述べたが、教育出版もすばらしい教科書だと思うので、私も教育芸術社に固執するわけではない。

では、音楽（一般）の教科書は教育出版に決定することでご異議はないか。

（委員一同異議なしの声）

鮎川委員長 ご異議なしということで、音楽（一般）の教科書は教育出版に決定した。

続いて、音楽（器楽）の説明をお願いします。

刀根選定委員長 それでは、音楽（器楽）についてご報告する。こちらも2社となっている。

まず、教育出版である。教育出版は、幅広く変化に富んだ学習活動を行えるような多様な教材が掲載されている。各教材の学習目標が明確になっており、共通事項との関連が図れるようになっている。また、基礎が身につくように教材が構成されてもいる。和楽器においては、演奏法だけではなく、姿勢や演技などについての情報も掲載されている。また、楽譜が大きく見やすく、一般の教科書に載っている歌唱教材と同じ曲を使用している。名曲と言われる曲がたくさん掲載されている。曲数が多いので、個のレベルに合った学習をすることができる。和楽器のコーナーではそれぞれの楽器を用いた楽曲の鑑賞も取り上げられており、伝統的な音楽文化の理解という観点から見ても適切である。

続いて、教育芸術社である。教育芸術社は、生徒の興味・関心を持つような新曲が多数取り上げられている。楽器の奏法がわかりやすいように一連の動きを並べた指針が使用されており、Q&Aに丁寧な解説がついていて、とてもわかりやすいようになっている。また、各楽器の特徴やよさを感じることのできる鑑賞教材が示されており、多様な音楽に触れられるようさまざまなジャンルから選曲され、幅広い学習活動ができるようになっている。発展より基礎に

重きを置いているので、多くの生徒が基礎の力を身につけられる。また、楽器の特性を生かした創作の学習も取り入れ、幅広い学習ができるように配列されている。打楽器についてのページがあったり、学校の実態に応じた選曲ができるように、大小さまざまな編成のアンサンブルが掲載されたりしている。

以上である。

鮎川委員長

ご質問はあるか。よろしいか。

私から1つ質問してよいか。こちらの採択は音楽（一般）と（器楽）別々の採択であるが、器楽の教科書は一般とそろえたほうが先生方にとってご指導しやすいということはあるか。

刀根選定
委員長

専門の教科ではないが、やはりそろえておいたほうが指導しやすいという側面はあるようには感じている。

以上である。

鮎川委員長

わかった。ほかにご質問はあるか。

では、協議に入りたいと思う。ご意見をお願いします。

渡邊委員

私は専門的なことはわからないが、両方のほうを見比べて、楽譜が大きくて見やすいという、その1点だけである。ということで、教育出版を推薦する。

山本教育長

私も先ほどの理由と同じであるが、教育出版の教科書のほうが見開きのページでギターのコードを大きく載せたりとか、子どもたちに音楽に親しみやすいような工夫が優れていると思った。教育出版のほうがいいと思う。それから、先ほどの説明であったが、音楽（一般）の教科書と同じ曲を使用して編集されているので、やはり同じ会社のほうが使いやすいのかなという気がしている。

岡村委員

私も同じ会社のほうが使いやすいかなと思っている。それだけである。

鮎川委員長

教育出版ということで。

岡村委員 そういうことである。

福元委員長
職務代理者 教科書をそろえたほうが指導しやすいということもある。
 同じが良いと考える。

鮎川委員長 4名の委員皆様の意見が一致で、教育出版というご意見だと思う。
 私の意見は、音楽（一般）のほうで教育芸術社がよいと思っていたので、本日のこの会議の場までは器楽も教育芸術社がよいと思ってまいったが、音楽（一般）が教育出版に決定したので、そろえたほうが指導しやすいということであれば、教育出版のほうがよいと思う。

 ただ、私が器楽の教科書で教育芸術社がよいと思った理由の一つとして、リコーダーの運指表が、芸術社は、2ページで見開きだが、教育出版は、折り返しをめくらないと運指表が出てこない。3ページ必要であれば、折り返しを開くことも必要だ。2ページなので、折り返しはなくても良い。リコーダーが苦手な生徒さんは、頻繁に開く部分だと思うので、開きやすいほうが使いやすいと思った。

 教科書を選ぶという点に対しては、繰り返しになるが、一般と同じということで、教育出版がよいと思う。

 では、5名の委員全員一致ということで、音楽（器楽）の教科書は教育出版ということで、皆様、ご異議はないか。

 （委員一同異議なしの声）

鮎川委員長 ご異議なしということで、音楽（器楽）の教科書は教育出版に決定した。

 では、次に、美術の説明をお願いします。

神田選定 美術は3社である。

副委員長 まず、開隆堂出版。開隆堂出版は、目標が明示されていて、生徒が取り組みやすくなっている。見開きのページの比較する部分が変わりやすいものになっている。紙面は光沢が抑えられていて、目に優しく、全体的にゆったりと配列されているので、生徒が読みやすく、見やすくなっている。1つの教材につき、4ページから6ページの構成になっていて、生徒が深く学習することができる。第1学

年と第2・3学年の2冊となっていて、使いやすくなっている。

光村図書である。光村図書は、見開きの図版が大きく迫力がある。目標が示され、学習の狙いがかみやすくなっている。アルファベットのQのような問いかけの制作のヒントにもなっている。原寸大の図版が多く、作品の大きさを生徒が実感しやすくなっている。また、資料が多く、正確でわかりやすく並べられている。第2・3学年を1冊にまとめてあり、使いやすくなっている。学習を支える資料も充実している。

最後に、日本文教出版であるが、日本文教出版の教科書は、第1学年で「図画工作から美術へ」の単元があり、1年生にとってわかりやすいつくりになっている。学びの狙いが示されていて、生徒が学習目標をつかみやすく、制作にとりかかりやすくなっている。作品には作者の言葉がついており、作品理解に役立つ。また、和紙風のページがあるなど工夫があつて、大判ゆえに配列がゆったりとしている。第1学年と第2・3学年上、第2・3学年下の3冊で、大きくクロッキー調のサイズになっている。

以上である。

鮎川委員長

ご質問はあるか。よろしいか。

それでは、協議に入る。ご意見願います。

渡邊委員

私は開隆堂がいいと思って、というのは、3社の本を見ていたが、やはり一番印象に残ったのは「モナリザ」の原寸大の写真が載っていたということである。細かいひび割れのあれから全部、私、実際本物をまだ見たことがないが、写真であるから本物と同じ感じで、世界一の名画が原寸大で載っているというのはやはり迫力があつた。それから、生徒がつくった「見返りオオカミ」はほかの教科書にも載っていたが、大きく載っていたのは開隆堂である。それから、東山魁夷さんが描いた「道」というのは、ほかの教科書にも載っていたが、そうすると、総合的に開隆堂がいいかなと思った。

福元委員長
職務代理者

私は光村図書がいいのではないかと考えている。美術の技法とか制作手順が丁寧に説明されていて、苦手な子どもも大変わかりやすいし、取り組みやすいのではないかなというふうに思っている。資料も非常に豊富であるので、光村だと思っている。

岡村委員

私も光村図書。私はあまり絵とか上手ではないので、美術は苦手である。だから、こういう本を見ると、大体描くということより鑑賞のほうに気持ちが行くが、光村が自然とともにある日本の姿というので金屏風を載せたりとか、あときれいな置物とかを載せて、日本のあでやかなものを示しながら、第2・3巻では、墨の世界を体感しようと、長谷川等伯の静かな絵があって、すごくバランスがとれていて、私は光村がすごくいいなと、鑑賞者として感性を高めていく、描くのはあまり得意ではないが、鑑賞する気持ちとこのをこちらが盛んにしてくれるかなと思って、光村がいいと思った。

山本教育長

3社とも非常に個性がある。開隆堂は、編集方針がモダンアートに力を入れ過ぎて、古今東西の名画とか名作を鑑賞するページが、ほかの2社に比べて少ない。そういう編集方針なので、私はちょっといかなものかなという気がした。光村が一番バランスがとれていると思う。古今東西の名画の鑑賞と生徒自身の創作活動のそういう感性豊かなものを大切にする、その双方のバランスがとれていると思う。日本文教出版は、一番お金がかかっているなという感じがした。ここだけが3冊になっていて、しかも豪華な見開きページが各冊とも3つずつある。なので、9つある。そして、その中に「富嶽百景」とか三十三間堂の仏像とか、田中一村の絵とかゴッホとか、非常にサービス満点で豪華な教科書だなと思った。結論を言うと、光村か日本文教出版、どちらか。

鮎川委員長

渡邊委員が開隆堂、山本教育長が日文か光村、そして福元委員が光村、岡村委員も光村ということで間違いはないか。

私も光村と日文がよいと思った。日文は、画集のように大きく美しいという点でとても魅力的に思った。光村の教科書は、先ほどの選定委員長のご説明にもあったが、創作過程が丁寧に書かれており、実際につくる、描くという技術がわかりやすいと思い、光村もよいと思った。

渡邊委員が最初に押した開隆堂、少数意見になるが。

渡邊委員

構わない。

鮎川委員長 特によろしいか。

渡邊委員 はい。

鮎川委員長 そうすると、光村はほかの4名がよいと思ったので、よろしいか。
山本教育長は日本文教出版も押していらっしゃったが、よろしいか。

山本教育長 結構である。

鮎川委員長 それでは、美術の教科書は光村に決定ということでご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしということで、美術の教科書は光村に決定した。
では、次に、保健体育の説明をお願いします。

神田選定 保健体育、4社について説明する。

副委員長 まず、東京書籍であるが、東京書籍の教科書は、キーワードが項目ごとであり、授業のポイントを理解しやすくなっている。東日本大震災を受けて自然災害に関する内容が充実している。口絵資料にはスポーツ関係者を多面的に取り上げ、スポーツ全般に対して興味を引くような内容を編集している。また、単元のまとめとして確認・活用の問題が掲載されており、生徒の理解を深められる。章末に確認の問題、活用の問題の2つの段階の問題が用意されているので、ワークとしての機能も兼ね備えている。章末以外でも書き込みができるページが用意されており、活用しやすくなっている。

続いて、大日本図書である。大日本図書の教科書は、重要な言葉を太字にし、キーワードとしてまとめている。全体的に高度な内容で、発展的な学習ができると考えられる。学習したことを身近な生活で生かせる問いかけがある。また、資料の図や写真が多く掲載されており、図表が大きくカラフルで見やすくなっている。熱中症についても大きく取り上げている。リンクとして他の学習内容との関連ページを示しているので、掲載している資料が多くの機会に活用できる。章末資料や学習のまとめが詳細で、生徒の興味・関心を引

き出す内容になっている。

次に、大修館書店である。大修館書店の教科書は、生徒の興味・関心を引き出すような補足や事例が多く掲載されている。ソーシャルスキルについて扱っており、心の発達の内容が充実している。また、オリンピック関連の内容も充実している。資料の写真や絵が豊富で見やすく、グラフの選択が適切で、教材の理解を深めている。本文と資料、グラフ、表、図などの資料の配置もほぼ決まっていて、わかりやすくなっており、キーワードという項目が各単元にあることで、生徒が知識を習得する手助けになっている。本文の背景を淡い色にして、資料と本文を区別して見やすくするようにページを構成している。

最後に、学研である。学研は、生徒の興味・関心を引き出すようなニュースや場面設定が多く用いられている。保健編「障害の防止」の中で自然災害についての扱いがあり、オリンピック関連の内容では特に日本のオリンピックについてまとめている。イラストやカラー写真、図やグラフが大きく見やすく、心肺蘇生法の実習のイラストや写真、自然災害についての写真が充実している。ページ下の「情報サプリー」の内容が細かく書かれていて、生徒の理解や興味を引き出す。単元の終わりにはその内容を深める読み物もある。まとめとして問題も設定されていることから、生徒自身がどこまで理解できているかを確認しやすくなっている。

以上である。

鮎川委員長

委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見お願いします。

岡村委員

私は学研がすぐれていると思った。文章の中で男女の違いを述べて、そして妊娠・出産の仕組みを述べて、最後に子どもを抱えている優しいお母さんの顔が載っていて、とてもソフトな感じでいいと思ったのが1つ。あと、写真が非常にわかりやすく、心肺蘇生やけがの手当てなど、健康教育のところが非常にわかりやすかった。それから、今、現代的な問題であるアレルギー疾患について、お友達同士で、ぜんそくとか、ああいうアレルギーってどういうものかとか理解してもらいたいと思うのが、よく学研のほうに書いてあり、私は学研が一番いいかなと思った。

山本教育長 4社とも、インターネットの問題とか、自然災害、薬物の問題など、現代社会で必要なことを全部網羅していて、すばらしい教科書だなと思ったが、今の岡村委員の説明にあったように、総合的に判断して一番学研がいいかなというふうに思った。

渡邊委員 私は大日本図書がいいと思った。というのは、ちょっと見方が違うが、中学生だから、交通事故の要因と障害の阻止ということで自転車事故について詳しく書いてあった。もちろん、自然災害の驚異ということで、集中豪雨とか竜巻、火山の噴火、それから地震、津波。それから、一番の関心があったのが、人間のリズムが25時間ということで、朝起きて太陽光を見ることによって24時間のリズムに整えられるということが明確に書かれていたので、あえて中学生だからこの教科書がいいのではないかと思った。

福元委員長
職務代理者 私も学研のほうがいいと思っている。無理なく自然に考えさせる教材になっている。資料も豊富であるし、今、岡村委員がおっしゃった点から見ても、やはり学研かなと思っている。

鮎川委員長 学研が3名の委員、福元委員、岡村委員、山本教育長、渡邊委員が大日本と意見が分かれている。私の意見は、見る視点によってどの教科書がいいか、実は迷っていた。結論から言うと、学研と大修館がよいと思ったが、渡邊委員が先ほどおっしゃっていた自転車事故や人間のリズムが25時間という内容は、中学生に必要なもので、とても大切だと思った。

渡邊委員 ほかの教科書にも書いてあるが、より詳しい。

鮎川委員長 全体のバランスなどから、学研と大修館がいいと思った。学研に関しては3名の委員の方がよいということなので、私も学研がよいと思うが、渡邊委員、いかがか。

渡邊委員 いい。やはり思ったことなので言わないと意見にならないので意見は言わせていただく。皆さんに合わせていたらいけないと思う。結論と違っていても構わない。

鮎川委員長 多くの委員がよいと思った教科書ということで、保健体育の教科書は学研に決定ということで、ご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 ご異議なしと認め、保健体育の教科書は学研教育みらいに決定する。

では、続いて、技術・家庭の、まず最初に技術分野お願いします。

神田選定 技術、3社の説明をする。

副委員長

まず、東京書籍である。東京書籍は、サイズがA B判になっており、情報量が豊富である。4つの単元とも満遍なく取り扱われており、安全指導が一番初めに来ている。エネルギー変換の学習内容においてもLEDを用いた回路設計について掲載しており、時代に合った学習内容が掲載されている。ガイダンスの部分は1年生の発達段階に合う内容になっていて、文章と写真のバランスがよく、生徒が内容を理解しやすくなっている。開発者の話が「技術の匠」としてところどころにあり、生徒の興味を引き出せる構成になっている。1つの内容に偏ることなく4つの学習内容が発達段階に合ったものになっており、中学生が理解できる知識・技術で無駄なくまとめられている。

続いて、教育図書である。教育図書は生物育成、製造を中心に分野によって扱い方に特徴がある。また、単元分けが工夫されていて見やすくなっている。作業の様子をあらわした写真が見やすく、切り口が独創的である。実習ページの具体例が多く載っていたり、序章において技術分野で学ぶ4つの単元の概略があったりと、生徒にとって学習内容がわかりやすくなる工夫がされている。巻末資料についても、学習への興味・関心が高い生徒に適したものになっている。

最後に、開隆堂出版である。こちらの教科書は全体的にバランスがとれている。実際に中学校で使用している教材の写真を多く掲載しており、各ページ下段にある「豆知識」が内容豊富で、生徒に興味を持たせるものになっている。材料と加工法に使用されている作業写真が正確に道具を使用しており、工具の使用法に関する説明も

正確である。説明の文章と写真のバランスが適切であり、わかりやすい言葉が使われている。ところどころにある「参考」の部分が発展的内容を扱っていて、生徒の興味・関心を高めるものになっている。

以上である。

鮎川委員長

委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見をお願いします。

福元委員長
職務代理者

私は開隆堂がいいのではないかと考えている。今の説明の中でもあったが、全体のバランスがとれている。また実践例等が多数取り上げられていて、例が14ぐらいあったか、それを見ていて非常にわかりやすいという感じがした。あと、「豆知識」も非常に有効に生きているかなと思う。だから使いやすいということである。

渡邊委員

私も開隆堂がいいと思った。先ほどの先生のご意見でバランスがいいということでおっしゃったが、法隆寺の五重の塔の心柱がスカイツリーの芯柱に応用されているということを書いていた。それからあと、身近なものではシャープペンシルの分解した構造図が載っていて、実際に皆さん使っていると思うが、それも結構複雑な構造になっている。それから、面ファスナーというのか、オナモミの実から、自然の実から応用してファスナーをつくったということである。それから、ものづくりの進め方ということで、設計・製作・使用・評価というこのサイクルを回すという基本的な技術が習得されるということである。それから、自転車の保守点検も自分でみずからやるような内容が書かれていた。そして、トマト、稲とか、イチゴ、大根の実際の栽培例である。それから、最近問題になっているが、インターネットの利用ということで、人に迷惑をかけないような配慮の仕方も載っているということが非常によいかと思った。

山本教育長

私も総合的に判断して開隆堂がいいと思った。資料が非常にわかりやすい、正確である。そして、説明も丁寧で、写真も適切と思った。

岡村委員

私も開隆堂がバランスがいいと思った。あまりにも教育図書とか

はコンピューターについて詳し過ぎて、ここまで必要なんだろうかという思いがある。中学校でここまでやるかなというのは思ったのだが、実はこういう技術分野は私はすごく苦手であるが、開隆堂の一番最初に、「さあ、テクノロジーの扉をあけて技術分野の勉強をしようね」という、その言葉はすごく勉強になったので、開隆堂がバランスいいかなと思った。

鮎川委員長 4人の方全員、開隆堂にご意見一致である。私は開隆堂もバランスがとれてよいと思ったが、東京書籍は少し大きい、写真の美しさ、そして道具の扱い方の丁寧な説明、道具そのものについての説明など、東京書籍も同じぐらいよいと思った。技術・家庭（技術分野）の教科書は開隆堂ということで、皆様、ご異議はないか。

（委員一同異議なしの声）

鮎川委員長 ご異議なしということで、技術・家庭（技術分野）の教科書は開隆堂に決定する。

では、次に、技術・家庭（家庭分野）の説明をお願いする。

神田選定 では、家庭分野、こちらも同じく3社である。

副委員長 まず最初に東京書籍からであるが、東京書籍の教科書は、各領域の内容が基礎から始まっており、学習をスムーズに進められるようになっている。「豆知識」が載っており、クイズ形式になっている。「私たちの成長と家族・地域」では、乳幼児の写真が多く用いられていたり、実寸の幼児用シューズなどがあるなど、なかなか実際幼児と接する機会の少ない生徒にとってはイメージしやすくまとめられている。さまざまな種類のイラストやキャラクターが登場し、教科書のサイズが大きい分、情報量も多く、字や図が大きい目であるが、内容が豊富である。

続いて、教育図書である。教育図書は、実物写真や図などの資料が多く、章の初めには自立度チェックがあり、生徒が課題を見つけやすくなっている。また、新しい話題を取り上げたり、自分の将来をイメージさせる教材で生徒の興味を引きつけたりしている。領域の最後に学習の振り返りで学習内容を確認できたり、キャラクターの吹き出しの内容は実際に中学生が発しそうな言葉で書かれたり

しているなどの工夫が見られる。情報や資料が多いので、生徒の状況に合わせて選択しながら使うことができる。副教材の資料集がなくても、この教科書だけで発展的な学習もできる。

最後に、開隆堂出版である。開隆堂出版は、ポイントを絞って簡潔でわかりやすい内容になっている。各領域の資料は正確な基礎・基本的な内容をまとめた資料となっており、情報を与え過ぎず、生徒が調べたり考えたりする余地がある。イラスト、写真、色使いや配置に統一感があり、食品成分表など細かな資料も見やすくなっている。B5のノートと大きさがほぼ同じなので扱いやすく、イラストがシンプルで、色や字体、マークでポイントを知らせているのが教科書として落ちつきがあるということになる。全ての領域に、近年の社会の動きや課題発見へとつながる「持続可能な社会をつくる」がある。

以上である。

鮎川委員長

委員の皆様、ご質問はあるか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見お願いする。

渡邊委員

私は開隆堂がいいと思った。一番の注目点は、家庭内の安全ということがちょっと重複されていて、人口10万人当たりの死亡者数の割合というのか、ちょうど小金井市は12万人ちょっと、非常にわかりやすい数字ということで、その中で、特に65歳以上になると40人ということで極端にはね上がる。その中には、やけどだとか転倒、それから浴槽での溺死とか、具体的に載っていて、多分中学生のおじいさんかおばあさんぐらいの年代か、そういったことで興味を持つ記事が載っていたので、開隆堂を推薦する。

福元委員長
職務代理者

私も開隆堂をと思っている。イラストや写真が適切で、用具の使い方とか作業手順等がわかりやすい。実際に活動する中でも使いやすいのではないかなと思う。したがって、先生たちも指導しやすいだろうと思う。

岡村委員

私も、食品成分表とか見やすいし、落ちつきがある開隆堂がいいと思った。

山本教育長 私は、3社ともいいところがいっぱいあって、順位をちょっとつけがたかった。東書は、やはり一回り大きい分、非常に文字も大きくて、説明も見やすい、図や何かも見やすいと思う。これは非常に長所である。それから、教育図書の方は、自分で考えよう、自分でつくってみようとか、主体的に行動させるような、あるいは考えさせるような、そういうページが非常に多くて、出版社の編集方針が伝わってきた。それとあとは、開隆堂は、皆さんおっしゃったように、総合的に見て、説明等も非常にバランスのとれたよい教科書だったので、私は3社どれもがいいということで。

鮎川委員長 山本教育長は3社全て、ほかの3名の委員の皆様は開隆堂をということ間違いはないか。

私も、結論から申すと、開隆堂がよいと思った。山本教育長がおっしゃったとおり、どの教科書も全てよく、それぞれの見るポイントによってそれぞれの教科書の特徴があるので、どの教科書でも小金井の中学校の先生方は素晴らしいご指導をしてくださり、生徒もその内容をうまく生かしていくと思う。先ほど、神田副委員長から「情報を与え過ぎず」、そして「落ちつきのある」というご説明があった。教科書として1つを選ぶとしたら、開隆堂がよいと思った。

そうすると、開隆堂が5名一致の意見となる。開隆堂に決定することでご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 よろしいか。それでは、技術・家庭（家庭分野）の教科書は開隆堂に決定する。

では、続いて、英語の説明をお願いします。

刀根選定委員長 それでは、外国語英語の教科書についてご報告する。全部で6社になる。

まず、東京書籍である。東京書籍は、コミュニケーション活動、スピーチはスモールステップで配列され、各単元に無理なく文法事項が載っている。重要文法事項が系統的に繰り返し提示され、基本的なものから応用的なものまで段階的に配置されている。また、日々の場面というのか、このデイリーシーンでは日常生活の場面を

扱い、英語を使うシチュエーション重視になっている。学年が上がるに伴い、英語ができる、好き、こういった生徒にとって学習意欲を駆り立てる分量と内容になっている。

続いて、開隆堂出版である。開隆堂出版は、読む、説明、アクティビティーといった流れで各単元が進み、教科書のみでも多様な活動ができる。巻末にはCan-Doリストを用意して、理解した技能を把握できる工夫がされている。全単元を通して各セクションに、学習の目当て、目標が提示されており、左のページに基本文、聞く・話す活動が、右のページに本文と各活動が順に配置されていて、学習手順がわかりやすくなっている。個々のレベルに合わせて生徒の学習意欲を駆り立てる内容となっている。

続いて、学校図書である。学校図書は、身近な題材を読みながら、自分の問題として理解し、考えることができる流れがある。また、会話文が多く出ており、英会話の力を育てることができる。各単元末に取り扱った文法事項の説明ページがあり、単語ごとに色分けすることによってわかりやすく提示されている。また、各パートの構成は、ページを開いているだけで次に何をすべきなのかがわかるようになっている。1年生が一般動詞からの導入となっており、発話活動がしやすく、言語活動が活発になるように配慮されている。英語に興味を持っている生徒が、英語を通してさまざまな分野にさらに関心を持つような内容となっている。

続いて、三省堂である。三省堂は、学校生活や家庭生活など、生徒にとって身近で共感を得やすいテーマで構成されていて、実際に使われる英語の表現を大切にしている。スリーヒントゲームのようなアクティビティーにより、自然と英作文に取り組めるように工夫されていて、本文、ポイント、単語のレイアウトが見やすく配置されている。1ページ当たりの情報量を減らすことで注目すべき点をわかりやすくしており、小学校英語からのつながり、be動詞、一般動詞、三単現など、段階を踏んだ配列になっている。基礎的なことを習得した後、プロジェクトでスピーチやライティングなど自己表現の練習をする構成になっており、スパイラルに活動しやすくなっている。教材の分量が各学年に合っており、英語が苦手な生徒にも十分配慮されている。

続いて、教育出版である。教育出版は、題材に即したイラスト、写真、絵、グラフなど、興味深く、わかりやすくなっている。会話

を前提としたスキットがあり、主語や目的語等を任意に入れかえることで応用できる。文法事項が各単元末に丁寧に説明しており、自宅学習、自学自習に向いている。疑問詞で始まる疑問文がまとまって提示され、集中して学ぶことができ、別冊「Essentials」がついていて、復習に活用できる。

最後に、光村図書である。光村図書は、イラストのみのページがあり、新たな工夫が感じられる。さまざまな題材を扱っており、日常会話が多く出ており、コンセプトがしっかりとした教材が載っている。内容が読み取りやすく工夫されているだけではなく、生徒が自分の考えを表現する際の助けになる。「Try It!」のドリル活動が簡潔であり、口頭練習から自己表現活動に向かって使いやすくなっている。また、単語、例文、基本文、練習問題の構成となっており、何を学んだかわかりやすくなっている。

以上である。

鮎川委員長

何かご質問はあるか。よろしいか。

それでは、協議に入る。ご意見お願いする。

福元委員長
職務代理者

教科書をぱっと見たときに、基本文がページの下にまとめられ、新しく出てきた単語が右のほうにまとめられている。紙面構成に工夫があり、使いやすいのではないかなと感じた。あと、基礎基本の定着を図る流れもスムーズである。また選定資料の声からも、三省堂がいいのではないかなと思っている。

山本教育長

国語と同じように、全部の会社の扱う教材が違う文章なので、非常に個性的だなと思った。それで、我々の生活の平和とか人権とか、そういう広い分野にわたって考えさせるような内容の教材を比較的多くとっている教科書と、日常生活の実用会話に力を入れている教科書と、そういう傾向があるなと思って見たが、そのバランスがとれているのがやはり三省堂かなと思ったので、三省堂がいいと思う。

渡邊委員

私も三省堂がいいと思ったが、東京書籍も生活に即した英会話が非常に多くて、わかりやすい。そして、最終的にであるが、大人になったときに、私は、皆さんは違うと思うが、ほとんど英語はしゃ

べれない。大学まで行って何年も勉強しても、一見難しいものは読めても、実際役に立たない。実際に身につくのは何かなと思ったときに、ごく簡単な英語でいいので、しゃべれるような英語という観点で見ると、東京書籍がわかりやすいのではないかと。ちょっと見方を変えた意見である。

岡村委員 私は三省堂がやはりいいと思った。付録のところに、日本語は全体から部分へ行って、英語は部分から全体へ行くよと。机の上の本と言うのを、英語ではbook on the deskと言う、日本語では机の上の本と言うので、bookのほうから行くから、英語は部分から全体に行くよというのが書いてあるのと、必ず主語があるよと。英語は、I saw何とかと、あれが見えるとか言わない、その部分が云々とあって、その基本を押さえれば英語の勉強は簡単だったのになと思って、三省堂はいいところを突いているなと思って、おお、いいなと思ったし、バランスもいいと思った。

鮎川委員長 渡邊委員も三省堂と東京書籍。

渡邊委員 両方いいと思った。

鮎川委員長 三省堂は全員一致でよいとお考えということで間違いないか。
結論から申すと、私も同意見である。渡邊委員のおっしゃった東京書籍についても、私もよいと思った。私も中学校から大学まで合わせて10年間英語を勉強しても、実際、海外に住んだとき英語が使える状態ではなかった。先ほどの選定委員長がおっしゃった、東京書籍のデイリーシーンは、日常会話が生きて使えるようになるだろう。英語圏での文化なども扱われているので、東京書籍もとてもよいと思った。ただ、皆様がおっしゃったとおり、バランスという点、生活で使われる英語に加えていろいろな題材を扱っているという点、この調査選定資料にも書かれていた小学校英語からのつながり、総合的に考えると、三省堂がよいと感じた。

渡邊委員と私が東京書籍もよいという意見はあったが、三省堂は5人の委員全員が一致でよいということで、よろしいか。特にご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

それでは、外国語英語の教科書は三省堂と決定する。

それでは、平成28年度小金井市立中学校使用教科書の採択については、国語が光村図書出版、書写が教育出版、社会（地理的分野）が帝国書院、社会（歴史的分野）が帝国書院、社会（公民的分野）が東京書籍、地図が帝国書院、数学が東京書籍、理科が東京書籍、音楽（一般）が教育出版、音楽（器楽）が教育出版、美術が光村図書出版、保健体育が学研教育みらい、技術・家庭（技術分野）が開隆堂、技術・家庭（家庭分野）が開隆堂、外国語英語が三省堂。このように決定とする。

以上で、平成28年度小金井市立中学校使用教科書の選定を終了する。

次に、日程第4、議案第37号、平成28年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択についてを議題とする。

提案理由の説明願う。

山本教育長

提案理由についてご説明する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、平成28年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。

細部については担当から説明するので、よろしくご審議の上、ご採択賜るようお願い申し上げます。

小林指導室長

市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号に基づき、小金井市教育委員会が毎年採択することとなっている。また、特別支援学級においては、学校教育法第9条により文部科学省検定済み教科用図書または文部科学省著作教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるとしている。各学校においては、校長を委員長とした調査研究委員会で児童・生徒の障害の種別、程度、能力、特性にふさわしい内容であるかを調査研究し、このたび、お手元の資料のように各学級の案として提出をさせていただいた。ご審

議のほどよろしく願います。

- 鮎川委員長 事務局の説明が終わった。ご質問、ご意見はあるか。
私から1つ質問してよろしいか。小金井第一中学校の自閉症・情緒障害固定学級I組の教科書は、通常の学級で使用される教科書を使用するというのでよろしいか。
- 小林指導室長 それでは、事務局のほうから、担当の統括指導主事よりご説明する。
- 高橋指導室長補佐 今のご質問であるが、自閉症・情緒障害学級では、まず条件として、知的発達のおくれが伴わない自閉症の生徒が在籍しているということがある。そのため、使用する教科書についても、通常の学級の教科用図書を使用することが生徒の実態に応じていることとなる。よって、小金井第一中学校のI組は全種目、全学年で小金井市立中学校使用教科用図書を使用する。
以上である。
- 鮎川委員長 ほかにご質問はあるか。
- 福元委員長
職務代理者 現在使っている教科用図書を変更した学校というのはあるか。
- 高橋指導室長補佐 小金井第二小学校で一般図書を変更した。資料にあるとおりである。
以上である。
- 福元委員長
職務代理者 変更した理由というのとは何か。
- 高橋指導室長補佐 小金井第二小学校のさくら学級になるが、児童の障害の程度や特性等を考慮し、児童の興味・関心、また学習意欲を一層高めることを狙いとして、校内で調査研究を行い、一般図書を今回変更させていただいた。
以上である。

福元委員長
職務代理者

わかった。

鮎川委員長

そのほかにご質問。

渡邊委員

社会や理科の内容については、資料の生活に示された一般図書の中に含まれていると考えてよろしいか。

高橋指導
室長補佐

今、委員のおっしゃられたとおりである。知的障害学級では、児童・生徒の障害に即した指導を行うため、日常生活の指導や遊びの指導、生活体験学習、作業学習などで各教科等の全部、または一部を合わせた授業を組み合わせて指導が行えるようになっている。このことを受け、社会、理科の教科用図書については、知的障害特別支援学校小学部の教科である生活として扱い、資料にお示しした社会と理科の内容を含む一般図書を選定しているということになる。
以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問はあるか。

岡村委員

学校ごとに教科用図書や一般図書が違っているが、それは子どもの障害等の状況によるのか。

高橋指導
室長補佐

教科用図書や一般図書の選定に当たってということになると思うが、東京都教育委員会が発行する特別支援教育教科書調査研究資料の一般図書を採択する場合の注意事項というものに、このようなことが示されている。このような冊子になるが、児童・生徒の障害の種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容のものであること、また可能な限り系統的に編集されているか、教科の目標に沿う内容が適切であるか考慮することなどの研究の視点が示されており、その視点に基づいて研究を行ってきた。本日、資料にお示ししている学校ごとの教科用図書や一般図書は、児童・生徒の障害等の状況に応じて選定をさせていただいたものである。

以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問はあるか。

では、何かご意見があったらお願いします。

子どもたちの個に応じてご指導をしてくださるために、細かく、学校ごとに教科書を選定していただいたということである。ありがとう。

それでは、お諮りする。平成28年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択については、原案どおり可決することにご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

ご異議なしと認める。よって、平成28年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択については、原案のとおり決定する。

次に、日程第5、報告事項を議題とする。1、その他、学校教育部から報告事項があればお願いします。

川合学校
教育部長

特にない。

鮎川委員長

生涯学習部から報告事項があればお願いします。

西田生涯
学習部長

公民館から報告させていただく。

前島公民館長

現福祉会館の利用停止に関して8月に市民への説明会を実施することになったので、ご報告する。

市として、現福祉会館内の各事業については、原則、仮移転等を行うという方針を示していたが、このたび、年度内で福祉会館の利用を停止することを目指すという形となった。これに伴い、公民館本館及び本館機能の仮移転を予定している本町分館での説明会を実施する。説明会は8月5日及び8月9日に行う予定である。なお、本館の説明会は福祉保健部と合同で開催することとなっている。開催については、市報やホームページ、月刊公民館でお知らせする。

以上、簡単であるが、ご報告とする。

鮎川委員長 何かご質問などあるか。よろしいか。
では、2、今後の日程。今後の日程について報告願う。

中島庶務係長 前回、7月14日の教育委員会でお示しした3カ月の今後の予定
について、報告した内容と変更がないので、報告を省略させていただく。よろしく
願います。

鮎川委員長 以上で報告事項を終了する。
次に、日程第6を議題とするところであるが、人事に関する事件
である。委員長は、本案は小金井市教育委員会会議規則第10条第
1項に規定する事件に該当するため、非公開の会議が相当と判断す
るが、委員の皆様、ご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 では、全員異議なしと認め、秘密会を開会する。
準備のため、休憩する。

休憩 午後4時46分
再開 午後4時49分

鮎川委員長 再開する。
本日の審議は全て終了した。これをもって平成27年第8回教育
委員会定例会を閉会する。
お疲れさまであった。

閉会 午後4時49分